

生活への適応を困難にする行動上の問題のことを言います。

中核症状

●記憶障がい

初期のころは、新しい記憶があいまいになりますが、過去の記憶はしっかりとっています。症状が進行するにつれ、今起こっていることを記憶することが困難になり、過去の記憶を断片的に思い出しながら毎日を過ごすようになります。

●見当識障がいとその影響

初めは日にち、そして月、進行すると季節や朝夕などの時間が分からなくなり、また、場所や空間の認識ができなくなつて、自宅でも迷うようになります。さらに、人の見分けがつかなくなり、配偶者や子どもの顔を見ても分からなくなります。

このため、不安から気持ちやうまく表現できずにイライラしたり、周囲から見て異常と思われる行動をとったりすることがあります。



●理解力・判断力の低下

物事を推測したり、順序だてて行動したりすることが難しくなります。

また、計算や今までできていたことができなくなることもあります。

●生活動作障がい、歩行障がい

排せつや着替え、入浴、食事などの基本的な生活動作障がいや歩行障がいなどが現れます。

周辺症状と支援

認知症になると、思いがけない行動を起こすことがあります。なぜそうするのかを考えれば接し方も分かってきます。慌てず冷静に対応しましょう。

●不眠

認知症では昼夜逆転タイプの不眠がよく見られます。不安を取り除き、規則正しい生活をするためには次のような対処方法があります。

●日中は、外に出て明るい光を浴びせたり、自然光の差し込む明るい環境で過ごさせたりしましょう。



●軽い運動や家事の手伝いなど、できるだけ動かせましょう。

●夜眠るときは常夜灯をつけておきましょう。

●空腹にならないよう眠る前に、温かい飲み物や消化のよい食べ物を少し取らせましょう。

●夜間せん妄

夜間、興奮したり、幻覚を見たりして家の中を歩き回ったりすることを夜間せん妄といいます。部屋を明るくして穏やかに対応すると落ち着きます。日中散歩するなどして夜眠れるようにし、ひどい場合は医師に相談しましょう。



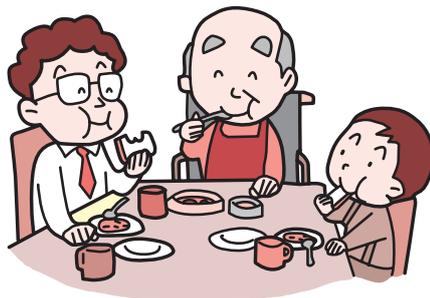
●空腹を訴える

食事をしたばかりなのに、食べ物欲しがったり、食べ物ではない物を口にしたたりする場合があります。はいかいたる方は、運動量も多く、本当に空腹な場合もありますので、頻繁に要求するときは、小さなおにぎりやクッキーなどを少しずつ上げるといいようです。

また、同じ量のご飯でも大きなお茶碗一杯より、小さな器でお代わりをして上げの方が満足感があるようです。

認知症だからといって、壊れにくい食器を使うのではなく、なるべく美しい食器を使いましょう。美しい食器や季節感のある彩りの美しい料理などが食事の満足感を高め、食行動の問題を減少させます。

また、家族だんらんの食事は満足感を生むようです。



●物盗られ妄想

自分がどこにしまったか忘れた物を「盗まれた」と言い張る場合がよく見られます。毎日介護していて「あんたが盗んだ」と言われれば傷つきますが、これも認知症ゆえの妄想と受け止め、否定しないで一緒に探して上げましょう。

また、時間に余裕がないときは代わりのものを用意するなどの工夫を試みましょう。